日販協「残紙に関する実態調査」の結果

全国平均1店当り8.3％の残紙

の間、全国的規模で実施されれ、このほど調査結果がまとまった。これによると「残紙ゼロ」と回答したもの、わずか四・六％で、全体の九五・四％の販売店で「残紙をかかえている」という実態が明らかになった。また全国平均の一店当り残紙の持部数対比は八・三％となり、全国紙系の店が八・六％、地方紙系は六・五％と、やはり

四国地区の二七％であり、これについで近畿の二〇％、九州の一七・六％、関東の一七・五％などとなっている。日販協では、十二月九日運営・公販合同委員会を開き、調査結果について検討したうえで新聞協会、ならびに全国の新聞社社長へ「自由増減の励行」を強く要請することになるもようである。

残紙比率概要（52．11．25）

	全国紙5社						地方紙・その他								合計			(有効) 回収率		回収率順位
	●小計		㋑㋺㋩		㋥㋭		●小計		地方紙26社		合売		系統名なし					配布数	回収％	
	店	％	店	％	店	％	店	％	店	％	店	％	店	％	店	順位	％		％	
北海道	8	3.9	8	3.9	—	—	12	2.2	12	2.2	—	—	—	—	20	⑩	2.9	44	45.5	②
東北	34	5.3	31	5.3	3	5.3	11	6.1	11	6.1	—	—	—	—	45	⑨	5.5	128	35.2	⑤
関東	139	10.4	108	8.7	31	16.5	22	7.4	16	8.4	5	5.2	1	2.5	161	③	10.0	372	43.3	③
東京	174	5.5	138	4.9	36	7.7	10	7.4	8	9.0	—	—	2	2.0	184	⑧	5.6	620	29.7	⑦
多京神	76	8.7	64	8.4	12	10.6	4	8.7	4	8.7	—	—	—	—	80	⑤	8.7	370	21.6	⑩
中部	8	7.2	8	7.2	—	—	8	11.4	8	11.4	—	—	—	—	16	④	9.3	52	30.8	⑥
北陸	2	6.0	—	—	2	6.0	2	6.0	1	11.0	1	1.0	—	—	4	⑦	6.0	18	22.2	⑨
近畿	91	12.5	71	10.9	20	18.3	10	5.4	9	4.9	—	—	1	10.0	101	①	11.8	200	50.5	①
中国・四国	17	11.2	13	11.0	4	11.8	3	10.5	1	3.7	1	20.3	1	7.5	20	②	11.1	55	36.4	④
九州	25	9.7	25	9.7	—	—	13	4.7	11	5.4	1	1.5	1	0.2	38	⑥	8.0	131	29.0	⑧
全国	574	8.6	466	7.7	108	12.6	95	6.5	81	6.7	8	6.1	6	4.0	669		8.3	1,990	33.6	·

やはり多い全国紙系店の残紙

調査は、主として東京本社管内の「東京」「関東」「多摩・京浜・神奈川」および大阪本社管内の近畿地区に重点をおき、全国を十地区にわけ、全国紙系、地方紙系に按分して調査カード一九九〇票を配布して行なわれた。

を除外した
計解析を行
ちなみに調
〇票に対す
二票は全体
国の新聞販
「残紙あり」
た。

◇

まず全国
一店当り
一店当り
残紙率は

◇

全国紙系
一店当り
一店当り
残紙率は

試算あれこれ？

読まれぬ

日販協推定では

務台正常化委員長が来年四月の「全国共集」を提案して強い反発意見を招いたといわれる十六日の

	重量 白紙換算	比率 （注1）	金額	部数 （注2）
通産省	10.8万トン	5.0％	126億円	231万部
務台氏	12　万トン	5.6％	140億円	257万部
日販協	17.9万トン	8.3％	207億円	383万部

（注1）51年新聞に使用された消費量…215万1千トン
（注2）1連4,000ページ（23kg）
平均ページ数22.6（通産省）

新聞協会の販
の席上、務台
回収との関係
現は避けなが
体的数値とし
その骨子は
十一年実績で
された新聞故
であるが、そ
聞販売店から
ーカーに行っ
一千トンの印刷
られないでメ
ことになり、
ると二二万ト
当り二、七〇
四〇億円に相
このあと務
三[illegible]二、七
円四〇銭）と